

外国にルーツを持つ児童の課題
－大泉町子どもの生活実態調査の結果から－

岡本 拡子, 佐々木 由美子, 吉永 安里

Challenges Concerning Children with Foreign Roots: From the
Results of the Survey on the Living Conditions of Children in Oizumi

Okamoto Hiroko, Sasaki Yumiko, Yoshinaga Asato

高崎健康福祉大学総合福祉研究所紀要

健康福祉研究 第20巻 第1号

2023年12月

《特別寄稿》

外国にルーツを持つ児童の課題 －大泉町子どもの生活実態調査の結果から－

岡本 拡子¹⁾, 佐々木 由美子²⁾, 吉永 安里³⁾

本研究では、外国にルーツを持つ児童の課題を明らかにするため、外国籍や外国にルーツを持つ人々が集住する群馬県大泉町において2019年に実施した大泉町子どもの生活実態調査の結果を用いて日本人家庭と外国にルーツを持つ家庭の比較をおこなった。

保護者への質問では2018年の世帯全体の収入について日本人家庭と外国にルーツを持つ家庭を比較し、児童への質問では成績の自己評価、学習の理解度、および生活に対する意欲・自信に関する項目を比較した。

その結果、以下の外国にルーツを持つ児童の課題が明らかとなった。

- 1) 世帯全体の収入では、日本人家庭と比較して低い収入区分の割合が高く、外国にルーツを持つ家庭全体のうち33.2%が250万円未満であった。
- 2) 日本人家庭の児童と比較して外国にルーツを持つ児童は、学習上の困難さをより強く感じており、とくに中学生以上でその傾向が顕著であった。
- 3) 生活に対する意欲・自信に関する項目のうち、「自分には得意なことがない」、「誰かのために役に立ちたいと思う」の2項目において、外国にルーツを持つ児童は日本人家庭の児童より自己評価が低かった。また、「自分のことが好きだ」については、外国にルーツを持つ児童の方が自分のことを肯定的に評価しているものの、中学2年以降は評価が低くなっていた。

今後の課題として、保護者の経済状況が児童の学習状況や生活に対する意欲・自信に関する自己評価にどのように影響を及ぼすのか、それぞれの課題の関連性について検証するとともに、個別の事例を継続的に検証することにより、外国にルーツを持つ児童の課題をより明確にし、具体的な支援策に繋げることの必要性が示された。

キーワード：外国にルーツを持つ児童，子どもの生活実態調査，学習，生活に対する意欲・自信に関する自己評価，貧困

1. はじめに

¹⁾ 高崎健康福祉大学人間発達学部子ども教育学科

²⁾ 足利短期大学

³⁾ 國學院大學

筆者らはこれまで群馬県大泉町において、乳幼児期の外国にルーツを持つ児童を対象に、か

これらの抱える課題を明確にし、小学校就学に向けた支援方法を構築するための研究をおこなってきた¹⁾。工場の多い大泉町は1990年の出入国管理及び難民認定法の改正以降、労働者として日系ブラジル人や日系ペルー人を多く受け入れてきており、現在も南米系を中心に50数か国もの外国人が暮らす集住地域である。全人口41,715人のうち19.8%にあたる8,255人が外国籍であり(2023年5月31日現在、大泉町ホームページより)²⁾、外国籍の人口比率は全国で最も高い地域のひとつである³⁾。

大泉町に暮らす外国にルーツを持つ児童の課題として、岡本ら(2018)は、非正規雇用や長時間労働など、保護者の労働条件や労働環境がもたらす経済的困窮、保護者の教育への理解や関心の低さ、小学校就学後に必要な学習言語習得の困難さを指摘しており⁴⁾、これらの問題について佐々木(2012)は、不就学や不登校など学習機会の剥奪や低学力の問題、その結果として生じる貧困の再生産等、児童の将来に重大な影響を及ぼすことが懸念されると述べている⁵⁾。

筆者らは自らが運営するNPOにおいて、群馬県の委託事業である「子どもの生活・学習支援事業」を大泉町で実施している。この事業は経済的困窮の状況にある家庭やひとり親家庭の小学生、中学生、高校生を対象としているが、大泉町という地域性から参加者の半数以上が外国にルーツを持つ児童である。この生活・学習支援に参加する児童らについて、Okamoto & Sasaki(2019)は、「かれらには日本語習得不足が顕著にみられ、そのため学力不足や学習意欲の低下がみられる。さらには母語も維持できておらず、アイデンティティにも揺らぎがみられ、自尊心の低さも課題となっている。学力不足や学習意欲の低下は、将来の進路に目標を持

つことを困難にし、目標達成のために努力する気力も奪う。自尊心の低さは、他者との良好な人間関係を築くことを困難にしたり、時には感情のコントロールが困難となって攻撃的な行動を示したりすることもある。」と述べている⁶⁾。筆者らがこれまで大泉町で関わってきた外国にルーツを持つ児童らは、主に生活・学習支援に参加している児童である。したがって、筆者らがかれらの課題としてとらえてきた学力の低さ、生活や学習に対する意欲の低さ、自尊心の低さ、そして将来の目標を明確にもつことができないことなどには、保護者の経済状況から派生する家庭環境も影響しているのではないかと推察される。しかし、筆者らがこれまでおこなってきた大泉町に暮らす外国にルーツを持つ児童を対象とした研究は事例検討が中心であり、これらの課題に関して客観的データに基づく実証研究はおこなっていない。

一方、子育て世代への支援を重点施策のひとつに挙げている大泉町は、その具体的施策策定を目的として、2016年に第1回「子どもの生活実態調査」を実施し、この調査結果から4つの施策(食支援、学習支援、居場所づくり、保護者の就労支援)を打ち出した。そして、2019年に第2回「子どもの生活実態調査」を実施し、第1回目の調査後の施策の効果検証をおこなった。さらに第2回目の調査では、より具体的に子育て世代の生活実態を明らかにするため、保護者においては国籍を問う質問項目を追加し、また家庭の実態が児童の実態にどのような影響を与えているかについても分析できるよう、保護者の回答と児童の回答の紐づけをおこなって調査した⁷⁾。

そこで本研究では、外国にルーツを持つ児童の課題をより明確にするため、この調査による

客観的データを用いて外国にルーツを持つ家庭と日本人家庭とを比較し、児童の育ちにはどのような違いがあるのかを明らかにしたい。

2. 研究の目的と方法

本研究では、2019年に実施した第2回大泉町子どもの生活実態調査の結果から、日本人家庭の保護者とその児童、外国にルーツを持つ家庭の保護者とその児童のそれぞれの回答結果を用いて、全質問項目のうち、保護者の経済状況、児童の成績や学習に関する実態、およびふだんの生活に対する自己評価に関する質問項目について、日本人家庭と外国にルーツを持つ家庭の比較分析をおこなう。この分析を通して、大泉町に暮らす外国にルーツを持つ児童の生活実態と課題を明らかにすることを目的とする。

本研究の分析に用いる第2回大泉町子どもの生活実態調査の概要は表1のとおりである。調査対象者は、大泉町が2016年に実施した第1回

目の調査と同様に、大泉町内の公立小中学校に通う児童とその保護者である。保護者については小学1年生から中学3年生までの全保護者を対象とし、児童については、自身で回答できる年齢を考慮して小学4年生から中学3年生までの全児童・生徒を対象とした。

保護者への質問項目は、①回答者の属性、②同居家族について、③両親それぞれの就労について、④生活に関すること（住居、年収、借入、自家用車の有無、家計、経済的な困りごと）、⑤子育てについて、⑥人間関係、⑦健康状態（保護者、子ども）、⑧子どものことについて（所持品、食事、就寝時間、学習状況、進学・進路、放課後・休日の居場所）など35項目である。また児童への質問項目は、①回答者の属性、②食事に関する項目、③将来の夢、④ふだんの生活について（生活の中で思うこと、これまでであったこと、一番の話し相手、成績に関する自己評価、学習の理解度、学習時間、居場所、悩み）など21項目である。

表1 第2回大泉町子どもの生活・実態調査概要

調査期間	令和元年9月20日～10月4日	
調査対象者	児童生徒：町内全域の小中学校の児童（小学4年生～中学3年生）	
	保護者：上記の児童の保護者（小学1年生～中学3年生）	
調査実施方法	児童生徒：各学校へ調査票を配布、児童生徒への記入を依頼 記入後、学校で回収し、福祉課へ提出 回答は無記名	
	保護者：各学校の児童生徒を通じて保護者へ調査票を配布 記入後、児童生徒を通じて学校で回収、福祉課へ提出 回答は無記名	
調査書配布数	児童生徒：2,080人	保護者：3,083人
保護者用調査書配布区分	日本語版：2,544人	ポルトガル語版：539人
回収	児童生徒：1,889人	保護者：1,886人
保護者用調査書回収区分	日本語版：1,610人	ポルトガル語版：276人
回収率	児童生徒：90.8%	保護者：61.2%
有効回答数	児童生徒：1,887人	保護者：1,820人

なお、本調査では、保護者の生活実態が児童の生活にどのように影響を及ぼすかについて明らかにすることができるよう、保護者の調査票と児童の調査票の紐づけをおこなった。紐づけの方法は、次のとおりである。まず児童と保護者の各調査票に同じ識別番号（個人が特定されないようランダムな4桁の数字）を付した。保護者は児童が持ち帰った識別番号が付された調査票に回答するが、きょうだいのいる保護者には複数の調査票の1部のみに回答してもらい、残りの白紙の調査票に付された識別番号を回答済みの調査票に記入してもらった。さらに、白紙の調査票も同封して返却するという方法をとった。このことにより保護者と児童、きょうだいを判断することを可能とした。

本研究での分析にあたり、まず対象となる日本人家庭と外国にルーツを持つ家庭の保護者および児童の分類をおこなった。その結果、保護者（小学1年生から中学3年生までの児童をもつ保護者）については、日本人家庭の保護者1,389人、外国にルーツを持つ家庭の保護者377人であった。また児童（小学4年生から中学3年生）については、日本人家庭の児童1,232人、外国にルーツを持つ家庭の児童259人であった。

なお、外国にルーツを持つ家庭の分類方法は次のとおりである。まず、保護者への質問項目「同居する家族の国籍について」の回答から、両親またはどちらか一方の国籍が日本国籍以外と回答しているもの、次に、両親の国籍が不明である回答のうち「家庭内での使用言語」について、両親またはどちらか一方が「日本語以外の言語を使用している」と回答しているもの、さらに、上記2つが不明であった回答のうち、祖父母の国籍のいずれかが外国籍であると回答しているものを「外国にルーツを持つ家庭」と

判断した。児童については、上記の方法で抽出した外国にルーツを持つ家庭の保護者377人のうち、保護者との紐づきが確認できた回答を対象とした。なお、全回答における日本人家庭の保護者と児童、外国にルーツを持つ家庭の保護者と児童、ルーツが不明の保護者と児童、紐づきが不明な児童それぞれの人数は表2-1および表2-2のとおりである。

表2-1 日本人家庭と外国にルーツを持つ家庭の保護者の人数

	保護者（人）
日本人家庭	1,389
外国にルーツを持つ家庭	377
不明	54
計	1,820

表2-2 日本人家庭と外国にルーツを持つ家庭の児童の人数

	児童（人）
日本人家庭	1,232
外国にルーツを持つ家庭	259
不明	32
紐づきが不明	364
計	1,887

本研究では、以下に示す質問項目について、日本人家庭と外国にルーツを持つ家庭の比較をおこなった。まず保護者については2018年の世帯全体の収入の比較をおこなった。「無収入」、「150万円未満」、「150～250万円未満」、「250～350万円未満」、「350～450万円未満」、「450～550万円未満」、「550～650万円未満」、「650～750万円未満」、「750万円以上」、「答えたくない」の各区分で回答してもらったもの、および無回答について、日本人家庭、外国にルーツを持つ家庭のそれぞれの人数と構成比を比較し

た。なお、世帯全体の収入の区分については、前回調査と比較検討ができるよう第1回実態調査と同じ区分となっている。

児童に関しては、(1)学業成績の自己評価、および学習の理解度に関する各1項目、(2)「ふだんの生活の中で自分のことをどう思っているか(以下、大泉町の報告書で使用されている「生活に対する意欲・自信に関する項目」と表記する)」についての11項目、計13項目についての比較をおこなった。

学業成績の自己評価については、「あなたの成績はクラスの中でどのくらいだと思いますか」という質問に対し、「上のほう」5点、「少し上」4点、「まん中あたり」3点、「少し下」2点、「下のほう」1点、「どれにもあてはまらない」除外とした。学習の理解度については、「学校の勉強について、一番あなたの気持ちに近いものはどれですか」という質問に対し、「よくわかる」4点、「だいたいわかる」3点、「あまりわからない」2点、「ほとんどわからない」1点、「どれにもあてはまらない」、および無回答については除外とした。

生活に対する意欲・自信に関する項目については、「ふだんの生活の中で自分のことをあなたはどのように思っていますか」という質問に対して11の項目(①自分に満足している、②自分には得意なことがない、③自分のことが好きだ、④自分はダメだと思う、⑤ひとりぼっちだと思う、⑥不安に感じることはない、⑦誰かのために役に立ちたいと思う、⑧夢や目標に向かって頑張ることができる、⑨自分は家族に大切にされている、⑩大人は信用できる、⑪自分の考えを相手にはっきり言うことができる)の質問をおこなった。これらの11項目について「そう思う」、「どちらかというそう思う」、「あまりそう思

わない」、「思わない」、「わからない・教えたくない」のひとつを選んで回答してもらった。各回答は、「そう思う」4点、「どちらかというそう思う」3点、「あまりそう思わない」2点、「思わない」1点(②、④、⑤については逆転項目として得点化)とした。なお、項目ごとの「わからない・教えたくない」という回答、および無回答については除外した。

これらのことから、上記13項目の有効回答者数は項目ごとに異なっている。

学業成績の自己評価、および学習の理解度に関する各1項目、および生活に対する意欲・自信に関する11項目の計13項目について、日本人家庭と外国にルーツを持つ家庭の児童の結果を比較するため、各設問を従属変数、学年と日本人家庭の児童、外国にルーツを持つ児童のそれぞれを独立変数とする学年(6)×ルーツ(2)の二元配置分散分析をおこなった。この結果から、ルーツ間および交互作用において有意差が認められた項目については、下位検定をおこなった。

なお、本研究では、大泉町にデータの2次利用の承認を得ている。また、高崎健康福祉大学研究倫理委員会の倫理審査を受け、承認を得ている(承認番号:高崎健康大倫第3008号、承認日:平成30年5月17日)。

3. 結果

(1) 保護者の世帯全体の収入の比較

保護者の2018年度の世帯全体の収入の結果は表3および図1のとおりであった。外国にルーツを持つ家庭の年収をみると150～250万円未満の比率が19.1%と他の区分と比べて最も高かった。250万円未満(無収入を含む)の家庭

表3 所得状況の比較

	全回答		日本人家庭		外国にルーツを持つ家庭	
回答者数(N)	1,820		1,389		377	
	n	%	n	%	n	%
無収入	9	0.5%	1	0.1%	7	1.9%
150万円未満	95	5.2%	48	3.5%	46	12.2%
150～250万円未満	130	7.1%	57	4.1%	72	19.1%
250～350万円未満	145	8.0%	90	6.5%	54	14.3%
350～450万円未満	194	10.7%	134	9.6%	59	15.6%
450～550万円未満	229	12.6%	197	14.2%	31	8.2%
550～650万円未満	209	11.5%	193	13.9%	16	4.2%
650～750万円未満	156	8.6%	151	10.9%	5	1.3%
750万円以上	294	16.2%	279	20.1%	14	3.7%
答えたくない	245	13.5%	195	14.0%	50	13.3%
無回答	114	6.3%	44	3.2%	23	6.1%
合計	1,820	100.0%	1,389	100.0%	377	100.0%

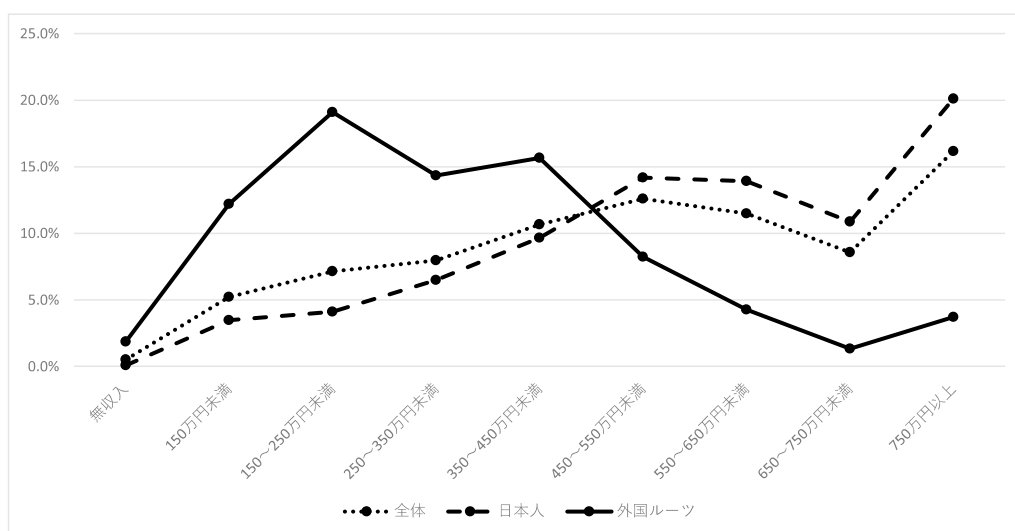


図1 所得状況の比較

で比較すると、全回答では12.8%，日本人家庭では7.7%であるのに対し、外国にルーツを持つ家庭では33.2%であった。また、750万円以上と回答している家庭は、全回答16.2%，日本人家庭20.1%と、各区分のなかで最も高かったのに対し、外国にルーツを持つ家庭では3.7%と最も低かった。

(2) 学業成績の自己評価および学習の理解度

学業成績の自己評価および学習の理解度について、日本人家庭の児童と外国にルーツを持つ児童の平均点を比較した。結果は表4、図2および3に示すとおりである。

学業成績の自己評価については、日本人家庭と外国にルーツを持つ児童との比較において有

表4 学業成績の自己評価および学習の理解度

		全回答			小4			小5			小6			中1			中2			中3			分散分析(F値)		
		N	Mean	SD	N	Mean	SD	N	Mean	SD	N	Mean	SD	N	Mean	SD	N	Mean	SD	N	Mean	SD	年齢	群間差	交互作用
学業成績の自己評価	①	1,198	3.05	1.23	191	3.24	1.10	218	3.09	1.21	206	2.97	1.14	193	2.96	1.26	194	2.99	1.30	196	3.04	1.34	10.02**	47.53***	14.2***
	②	232	2.47	1.15	38	3.13	1.07	53	2.55	1.05	43	2.77	1.11	42	2.12	1.17	27	2.07	0.92	29	1.86	1.16			
学習の理解度	①	1,205	3.07	0.66	196	3.30	0.63	222	3.20	0.61	206	3.21	0.54	190	2.93	0.61	194	2.86	0.68	197	2.89	0.67	98.78***	51.77***	2.49
	②	242	2.77	0.73	42	3.02	0.68	55	2.85	0.73	45	3.02	0.58	42	2.69	0.78	28	2.46	0.64	30	2.30	0.70			

①：日本人家庭の児童、②：外国にルーツを持つ児童

*** p<.001, ** p<.01, * p<.05,

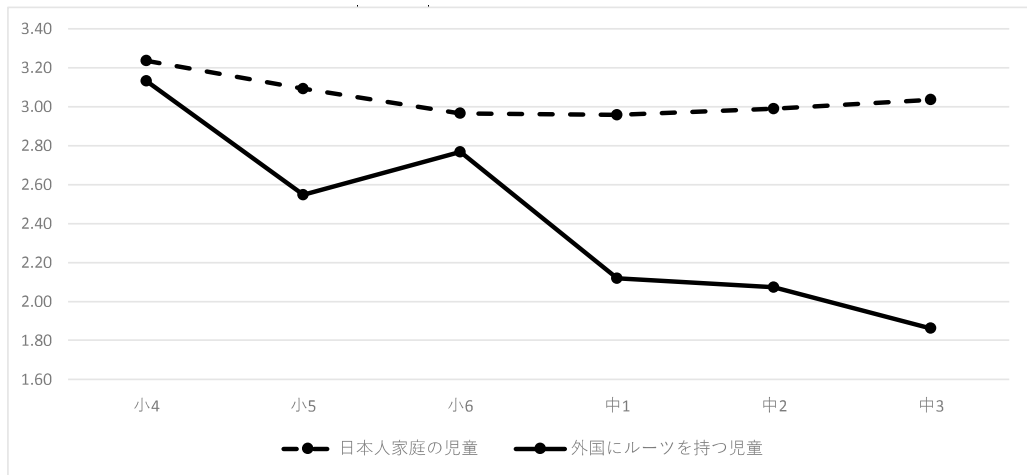


図2 学業成績の自己評価

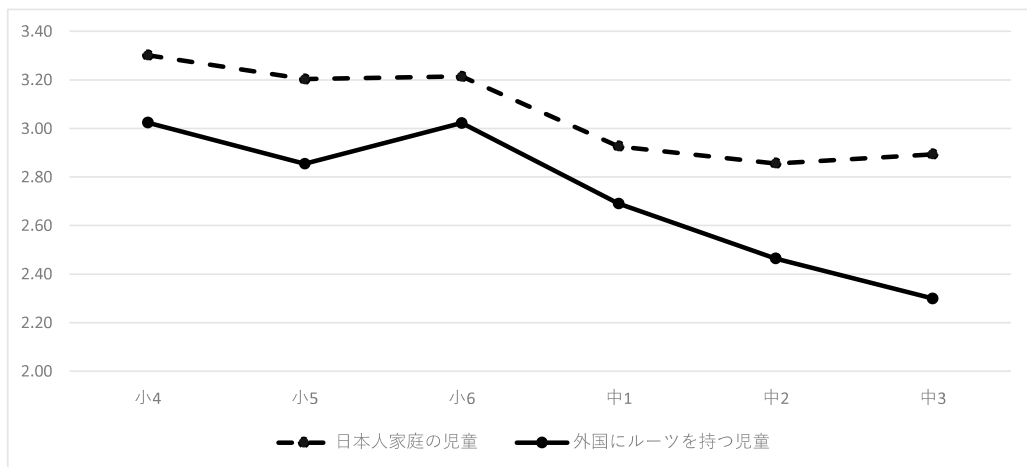


図3 学習の理解度

意差が認められ ($F:47.53, p<.01$), 交互作用も認められた。下位検定をおこなった結果, 同学年間に於いて0.1%水準で有意差が認められた学年は中学1年生 ($p:0.00***$), 中学2年生 ($p:0.01*$), 中学3年生 ($p:0.00***$) であった。

また, 学習の理解度についても, 日本人家庭の児童と外国にルーツを持つ家庭の児童との間に於いて有意差が認められたが ($F:51.77, p<.01$), 交互作用は認められなかった。下位検定をおこなった結果, 同学年間に於いて0.1%

水準で有意差が認められた学年は小学5年生 ($p:0.02^*$) と中学3年生 ($p:0.00^{***}$) の2学年であった。学年差については、学業成績の自己評価 ($p<.01$)、学習の理解度 ($p<.01$) ともに有意差が認められた。

(3) 生活に対する意欲・自信に関する項目

生活に対する意欲・自信に関する11項目について日本人家庭の児童と外国にルーツを持つ児童を比較した。結果は表5のとおりである。

なお、生活に対する意欲・自信に関する11項目については、信頼性を検証するため各項目の平均値±SDで天井効果・フロア効果の検証、およびクロンバックの α 係数を算出した。また、群間の等分散性の検証のため、ルビーン検定をおこなった。

信頼性検証では、②自分には得意なことがない ($Mean+SD:4.07$)、⑤ひとりぼっちだと思う ($Mean+SD:4.20$)、⑦誰かのために役に立ちたいと思う(4.23)、⑧夢や目標に向かって頑張ることができる ($Mean+SD:4.02$)、⑨自分は家族に大事にされている ($Mean+SD:4.28$)

の5項目において天井効果が認められた。しかし、ペアワイズ補正にて欠損を考慮したクロンバックの α 係数を算出したところ、値は $\alpha=0.779$ で十分な値が得られたと判断した。また、ルビーン検定では、①自分に満足している ($p:0.19$) 以外の項目では群間の等分散性は認められなかった。しかし、二元配置分散分析では許容される範囲であると判断した。

日本人家庭の児童と外国にルーツを持つ児童を比較した結果、①自分に満足している ($F:2.67$)、⑤ひとりぼっちだと思う ($F:1.51$)、⑥不安に感じることはない ($F:0.31$)、⑧夢や目標に向かって頑張ることができる ($F:1.18$)、⑨自分は家族に大事にされている ($F:0.26$)、⑩大人は信用できる ($F:3.78$)、⑪自分の考えをはっきり相手に伝えることができる ($F:0.26$) の7項目については、ルーツ間での有意差はみられず、交互作用もみられなかった。

ルーツ間において0.1%水準で有意差が認められた項目は、②自分には得意なことがない ($F:7.08, p<.001$)、③自分のことが好きだ ($F:11.14, p<.001$)、⑦誰かのために役に立ち

表5 生活に対する意欲・自信に関する項目

		全回答			小4			小5			小6			中1			中2			中3			分散分析(F値)		
		N	Mean	SD	N	Mean	SD	N	Mean	SD	N	Mean	SD	N	Mean	SD	N	Mean	SD	N	Mean	SD	年齢	群間差	交互作用
①自分に満足している	①	1,182	2.81	0.90	190	3.17	0.82	216	2.90	0.93	204	2.89	0.90	185	2.61	0.90	189	2.60	0.81	198	2.67	0.89	57.65***	2.67	0.59
	②	219	2.72	0.97	34	3.18	1.00	47	2.64	1.01	40	3.00	0.85	40	2.63	0.95	28	2.29	0.90	30	2.47	0.90			
②自分には得意なことがない 【逆転項目】	②	1,195	2.31	0.94	195	2.37	0.95	217	2.31	0.95	206	2.32	0.91	189	2.03	0.98	191	2.05	0.93	197	2.09	0.90	15.35***	7.08**	0.02
	③	228	2.96	1.08	36	3.11	1.06	53	3.00	1.11	43	3.12	1.14	38	2.74	1.08	28	3.00	0.94	30	2.73	1.05			
③自分のことが好きだ	③	1,152	2.31	0.96	188	2.36	1.12	212	2.34	0.99	196	2.31	0.95	181	2.16	0.90	186	2.23	0.86	189	2.46	0.91	2.88	11.14***	12.07***
	④	228	2.55	1.08	38	3.00	1.14	51	2.43	1.14	41	2.85	0.99	39	2.67	1.08	29	2.07	0.88	30	2.10	0.88			
④自分はダメだと思う 【逆転項目】	④	1,170	2.47	0.95	189	2.65	1.00	212	2.62	1.04	200	2.49	0.86	186	2.35	0.95	190	2.29	0.85	193	2.41	0.91	5.77*	1.51	1.83
	⑤	231	2.66	1.05	37	2.86	1.18	50	2.66	1.00	42	2.83	1.06	43	2.70	1.10	29	2.55	0.99	30	2.20	0.89	23.08***	6.15*	0.67
⑤ひとりぼっちだと思う 【逆転項目】	⑤	1,184	3.38	0.81	192	3.45	0.90	217	3.43	0.83	202	3.33	0.87	187	3.39	0.69	187	3.30	0.79	199	3.34	0.77	9.89**	7.73**	0.92
	⑥	234	3.31	0.95	37	3.46	0.96	52	3.44	0.87	42	3.36	0.96	44	3.18	0.97	29	3.10	1.01	30	3.20	0.96	5.77*	1.51	1.83
⑥不安に感じることはない	⑥	1,187	2.42	1.05	191	2.73	1.19	218	2.48	1.11	203	2.47	1.00	188	2.27	0.95	190	2.30	1.02	197	2.24	0.92	27.9***	0.31	0.16
	⑦	222	2.39	1.03	37	2.73	1.19	48	2.54	1.11	39	2.13	1.06	41	2.22	1.01	27	2.26	1.02	30	2.43	1.01			
⑦誰かのために役に立ちたい と思う	⑦	1,202	3.51	0.71	195	3.63	0.67	221	3.55	0.73	205	3.54	0.69	190	3.47	0.66	194	3.46	0.66	197	3.40	0.81	9.89**	7.73**	0.92
	⑧	224	3.37	0.89	35	3.60	0.85	49	3.22	1.03	41	3.44	0.87	40	3.20	0.99	29	3.28	0.84	30	3.53	0.57			
⑧夢や目標に向かって頑張 ることができる	⑧	1,188	3.22	0.78	193	3.37	0.85	217	3.29	0.80	202	3.27	0.74	189	3.19	0.75	190	3.13	0.73	197	3.07	0.77	23.93***	1.18	0
	⑨	231	3.29	0.81	38	3.37	0.75	52	3.21	0.82	41	3.66	0.57	41	3.32	0.85	29	3.07	0.96	30	3.03	0.76			
⑨自分は家族に大事にされて いる	⑨	1,176	3.54	0.73	191	3.69	0.69	216	3.53	0.78	203	3.53	0.74	184	3.51	0.73	191	3.55	0.69	191	3.44	0.71	14.06***	0.26	3.72
	⑩	231	3.52	0.78	37	3.65	0.68	54	3.56	0.82	42	3.83	0.44	39	3.51	0.85	29	3.21	0.90	30	3.20	0.85			
⑩大人は信用できる	⑩	1,179	2.89	0.88	192	3.23	0.86	218	3.02	0.83	199	2.92	0.89	190	2.82	0.89	187	2.66	0.87	193	2.69	0.82	69.95***	3.78	0.66
	⑪	224	3.40	0.98	35	3.40	0.74	51	2.98	1.03	41	3.39	0.70	41	3.00	1.10	28	2.75	1.00	28	2.54	1.04			
⑪自分の考えをはっきり相手 に伝えることができる	⑪	1,201	2.71	0.90	194	2.66	0.95	222	2.64	1.01	202	2.84	0.88	193	2.64	0.83	195	2.63	0.87	195	2.88	0.79	3.5	0.26	0.01
	⑫	231	2.68	1.01	38	2.92	1.10	52	2.29	1.02	43	2.81	0.91	40	2.63	0.95	28	2.75	1.00	30	2.83	0.99			

①：日本人家庭の児童、②：外国にルーツを持つ児童

*** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$

たいと思う ($F:7.73, p<.001$) の3項目であった。このうち、②自分には得意なことがない、⑦誰かのために役に立ちたいと思うの2項目については日本人家庭の児童の方が外国にルーツを持つ児童に比べて自分のことを肯定的に評価していた。

一方、③自分のことが好きだについては、外国にルーツを持つ児童の方が日本人家庭の児童と比べて自分のことを肯定的に評価しているものの、この項目では交互作用が認められ、中2・中3では外国人児童の自己評価が日本人家庭の児童に比べて自己評価が低くなっていた(図4)。この項目について下位検定をおこなったところ、同学年間に於いて0.1%水準で有意差が認められた学年は小学4年生 ($p:0.02^*$) の1学年のみであった。

④自分はダメだと思う ($F:6.15, p<.01$) ではルーツ間において5%水準での有意差が認められ、外国にルーツを持つ児童の方が日本人家

庭の児童と比べて肯定的に評価している。しかし、中3生のみを比較すると外国にルーツを持つ児童の方が自己評価は低くなっている。ただし、交互作用はみられなかった。

なお、ルーツ間、交互作用ともに有意差が認められた③自分のことが好きと、学業成績の自己評価との2項目間の相関関係をみたところ、全回答では強い相関があるとはいえない結果であった ($r=0.197$)。しかしルーツごとにみると、日本人家庭の児童については全回答とほぼ同程度であり相関があるとはいえないものの ($r=0.196$)、外国にルーツを持つ児童についてはやや相関関係がみられる結果となった ($r=0.327$)。

4. 考察

保護者の2018年の世帯全体の収入については、外国にルーツを持つ家庭では日本人家庭に

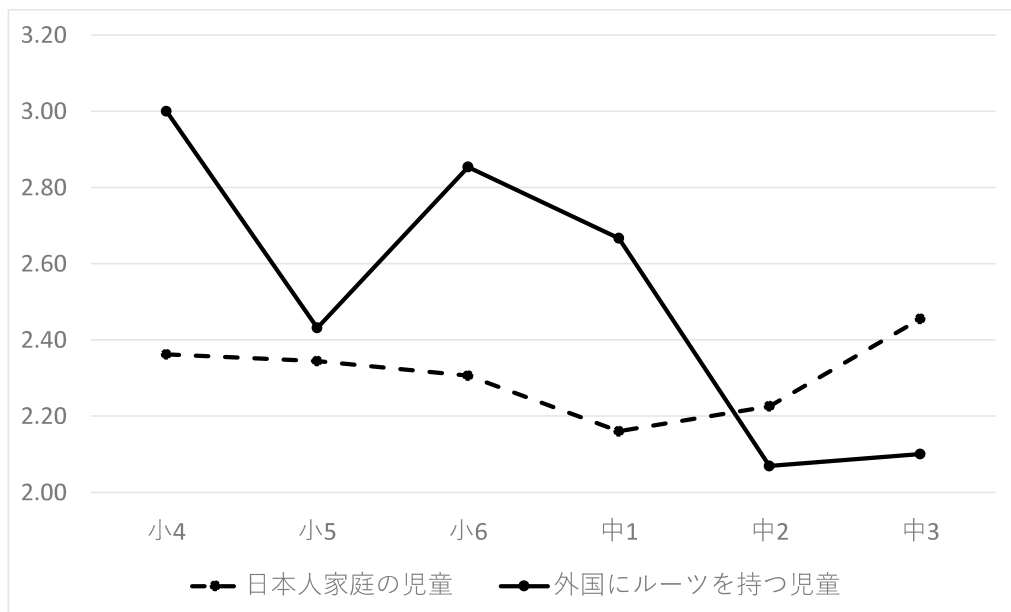


図4 ③自分のことが好きだ

比べて収入の低い家庭の比率が高く、外国にルーツを持つ家庭全体の33.2%が250万円未満（無収入を含む）であることがわかった。本調査は2019年に実施しているため、コロナウイルスの感染拡大により社会全体の経済状況が悪化した現在においては、さらに生活困窮に陥っている外国にルーツを持つ家庭が多いのではないかと推察される。

児童への調査においては、学業成績の自己評価、学習の理解度ともに、外国にルーツを持つ児童の自己評価は日本人家庭の児童に比べて低かった。学業成績の自己評価では交互作用が認められ、外国にルーツを持つ児童についてはとくに中学校入学のタイミングで自己評価が下がっていることが読み取れる。

生活に対する意欲・自信に関する自己評価について、日本人家庭の児童と外国にルーツを持つ家庭の児童を比較した結果、11項目中①⑤⑥⑧⑨⑩⑪の7項目において統計的な差は認められなかった。また、ルーツ間に有意差が認められた③自分のことが好きだ、④自分はダメだと思うについては、外国にルーツを持つ児童の方が日本人家庭の児童に比べて自分のことを肯定的に評価していることもわかった。これらの項目の分析結果から、生活に対する意欲・自信に関する項目については、外国にルーツを持つ児童が日本人家庭の児童に比べて自己評価が低いとはいえない。

しかし、外国にルーツを持つ児童の方が自分のことを肯定的に評価している③自分のことが好きだについては交互作用が認められ、中学1年生までは外国にルーツを持つ児童のほうが肯定的に評価しているのに対し、中学2年生で逆転して自己評価が低くなっていることがわかる。中学2年生という時期は、将来の進路を見

据えつつ受験勉強が本格化する時期である。中学校入学とともに学習に対するつまずきを感じ、「成績が悪い」、「勉強が分からない、できない」といった感情が学年経過とともに増していくことが推察される。その経験のなかで自身を肯定的にとらえる気持ちが失われていくことも考えられる。このような傾向は「自分のことが好き」と「学業成績の自己評価」との間にやや相関関係がみられた外国にルーツを持つ児童に特徴的な傾向といえるかもしれない。

本調査の結果について大泉町がまとめたクロス集計報告書においても、これに関連したことが報告されている⁸⁾。町がまとめた報告書では国籍別での分析はおこなっていないが、生活に対する意欲・自信に関する11項目に関して、全児童の回答（1,887人）を総得点化し11項目で除した平均点を算出している。そしてこの平均点の中央値で「生活に対する意欲・自信」低群と高群の2群に分類し、学年、将来の夢、学業成績の自己評価に関して2群間の構成比の比較をおこなっている。その結果、学年別でみた場合、低群の比率は小学4年35.5%、小学5年45.2%、小学6年42.9%であったが、中学1年55.0%、中学2年生59.2%、中学3年生60.1%というように、学年が上がるにつれ高くなっていった。「将来の夢」に関して「ない」と回答している児童は高群では12.8%であるのに対し、低群は26.9%であった。さらに学業成績の自己評価については、「まん中あたり」と回答している児童は低群30.4%、高群38.2%であったが、「下のほう」、「少し下」と回答している児童は、高群26.9%であるのに対し、低群は47.1%であった。大泉町の報告書では構成比のみが記載されており検定はおこなわれていないが、この報告書の結果から、「生活に対する意欲・自信」低

群の児童は、学業成績について高群の児童より低く自己評価する比率が高いことが示され、このことから自分自身を肯定的にとらえることに困難を感じている児童は、学校での学習にも困難を感じる傾向にあることが示唆された。

本研究における日本人家庭の児童と外国にルーツを持つ児童との比較分析では、統計分析として十分な結果が得られたとはいえないものの、外国にルーツを持つ児童においては「自分のことが好き」と「学業成績の自己評価」との2項目間においてやや相関関係がみられたことから、大泉町の報告書と同様に外国にルーツを持つ児童についても、自分自身を肯定的にとらえることに困難を感じている児童は学校での学習にも困難を感じていることが推察される。

また、保護者の回答から、外国にルーツを持つ家庭は日本人家庭に比べて経済的困窮状況にある比率が高いことが示された。保護者の経済状況が児童の学業成績の自己評価、学習の理解度、生活に対する意欲・自信とどのように関連するかについても、調査対象者数が少なかったため統計分析は実施していないが、OECD（経済協力開発機構）（2018）の調査において、社会経済的背景が不利であればあるほど教育的成果は得にくく、健康的な生活を送ることを困難にし、社会的問題（いじめなど）につながるリスク要因が増すこと、その結果として、社会への参加度の低下、失業率の上昇、生活満足度の低下を招くこと、さらには自尊心や社会的関係といった仕事を通して受けることができる恩恵も失われることが指摘されている⁹⁾。このことから、本調査の対象である外国にルーツを持つ児童においても、学業成績や学習の理解度に関する自己評価の低さや、生活に対する意欲・自信をもつことの困難さには、家庭の経済状況が

影響していることが看取できる。

5. まとめと今後の課題

本研究では、外国籍や外国にルーツを持つ人々が集住する群馬県大泉町において2019年に実施した第2回大泉町子どもの生活実態調査の結果から、保護者への質問では2018年の世帯全体の収入について日本人家庭と外国にルーツを持つ家庭の比較をおこない、児童への質問では学業成績の自己評価、学習の理解度、および生活に対する意欲・自信に関する項目について日本人家庭の児童と外国にルーツを持つ児童の比較をおこなった。

その結果、外国にルーツを持つ児童の課題として以下の3つが明らかとなった。まず、世帯全体の収入について、外国にルーツを持つ家庭は日本人家庭より低い収入区分の比率が高いことから、保護者の経済状況が日本人家庭と比較して厳しいことがわかった。また、日本人家庭の児童と比較して外国にルーツを持つ児童は学習上の困難をより強く感じており、とくに中学生以上でその傾向が顕著にあらわれることが明らかとなった。さらに、生活に対する意欲・自信に関しては、「自分には得意なことがない」、「誰かのために役に立ちたいと思う」の2項目について外国にルーツを持つ児童は日本人家庭の児童と比較して、自己評価が低いことがわかった。また、「自分のことが好きだ」については、外国にルーツを持つ児童の方が自分のことを肯定的に評価しているものの、中学2年以降は評価が低くなっていた。しかし、生活に対する意欲・自信に関する11項目全体をみると必ずしも統計的に明確な結果が得られたとはいえない。その理由のひとつとして、日本人家庭の

児童に比べて、外国にルーツを持つ児童の回答数が少ないことが挙げられる。児童のデータにおいて、保護者との紐づきが不明な回答数が364名であったが、今後は調査方法の工夫など紐づきが不明な回答を減らすことにより、分析対象となる外国にルーツを持つ児童のデータも増える可能性がある。そのことにより、より正確な統計データが得られることが期待できるだろう。

「はじめに」でも述べたように、筆者らがこれまで大泉町で実施している生活学習支援において関わってきた、経済的困窮の状況にある家庭の外国にルーツを持つ児童の多くは、学習上の困難さ、言語習得の課題、さらに学校での問題行動や不登校、非行など様々な課題を抱えている。かれらには「どうせ自分は外国人だから」、「勉強は分からなくても当然」、「宿題は答えを見ながら写せばよい」というように、自分自身を否定する発言や学習意欲の低さがみられる。将来の夢をもつことや進学に対する消極的な姿勢は、幼いころから日本と母国を行き来しているかれらにとって、「このままずっと日本で暮らすかどうかかわからない」、「いつか母国に帰るかもしれないので日本の高校に進学しても意味がない」という思いが関係しているように思われる。

本研究における調査では、筆者らがこのように個別の事例を検討するなかで見出してきた外国にルーツを持つ児童の課題について、学習上の困難さでは統計的根拠を示すことができた。今後は、継続的に実態調査を実施することによって実証的データを蓄積していくとともに、外国にルーツを持つ児童の育ちについて個別の事例を継続的に検証する質的調査もあわせておこなう必要がある。これらを通して、外国にルー

ツを持つ児童が抱える様々な課題の関連性をより明確にし、必要な支援策やかれらに対する継続的かつ系統的な教育方法を具体的に提言していきたい。

付記：本研究は文部科学省科学研究費補助金研究（基盤研究B）の一環として実施した。

課題：外国人児童の幼児期の言語習得と幼小接続を促す評価方法および教育実践プログラムの開発（課題番号：20H01660 研究代表者：岡本拓子 研究分担者：佐々木由美子、吉永安里）

1) これまでの筆者らの研究は以下の研究テーマによっておこなわれた。

林恵, 佐々木由美子, 岡本拓子, 多文化コミュニティにおける外国人の子どもの発達を保障する保育システムの構築 文部科学省科学研究費助成金研究基盤研究 (C), 2016課題番号: 16K01902

佐々木由美子, 林恵, 岡本拓子, ダイバーシティ社会の構築に向けた乳幼児期の子どものための多文化理解促進教育 文部科学省科学研究費助成金基盤研究 (C), 2017課題番号: 17K01932

2) 大泉町ホームページ<https://www.town.oizumi.gunma.jp/s017/gyousei/010/010/010/20200801172747.html>

2023年6月18日確認

3) 総務省住民基本台帳に基づく人口、人口動態および世帯数（令和3年1月1日現在）によると、外国人住民において、市区の中で最も人口が多いのは大阪府大阪市（14万4,123人）で、次いで神奈川県横浜市（10万2,248人）、愛知県名古屋市（8万4,109人）の順で続いている。

人口1,000人以上の町村は15町（前年18町村）で、群馬県大泉町（7,860人）が最も多く、次いで神奈川県愛川町（2,953人）、静岡県吉田町3人）の順となっている。

総務省ホームページより

https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/daiyo/jinkou_jinkoudoutai-setaisuu.html

2023年6月18日確認

4) 岡本拓子, 青柳千春, 竹内真理, 松田幸子, 子どもの貧困問題に対する多角的実践的アプローチの構築（1）－小学校と地域の連携による外国にルーツのある子どもへの支援－, 高崎健康福祉大学総合福祉研究所紀要, 第15－1, 11－18, 2018

- 5) 佐々木由美子, 多文化保育における言語コミュニケーションの意義, 立正社会福祉研究39-2, 40-48, 2012
- 6) Okamoto, H., & Sasaki, Language Acquisition of Non-native Japanese Speaking Children in their Early Ages and their Development in Japan. 29th EECERA Conference, Thessaloniki, Greece, 2019
- 7) 第2回大泉町子どもの生活実態調査の結果報告書は以下に公開している.
<https://www.town.oizumi.gunma.jp/s012/kenko/010/010/160/cross-syuukeikekka.pdf>
- 8) 前掲7)
- 9) OECD (編), ベネッセ教育総合研究所 (企画), 無藤隆・秋田喜代美 (訳), 社会情動的スキルー学びに向かう力, 明石書店, 52, 2018

Challenges Concerning Children with Foreign Roots: From the Results of the Survey on the Living Conditions of Children in Oizumi

Okamoto Hiroko, Sasaki Yumiko, Yoshinaga Asato

Key words: Children with foreign roots, The survey on the living conditions of children, Learning, self-evaluation of motivation and confidence in life, Poverty

Abstract

Using the survey on the living conditions of children in Oizumi, this study compared Japanese families and families with foreign roots to clarify the issues that children with foreign roots face. The survey was conducted in 2019 in Oizumi, Gunma Prefecture, where there is a concentration of foreign nationalities or individuals with foreign roots.

Parents were inquired about their overall household income in 2018, and the replies from Japanese families and families of foreign roots were compared. Questions to the children were related to self-assessment of their school grades, the degree to which they understood what they learnt at school, and the items related to self-evaluation of motivation and confidence in life were compared in the same manner.

As a result, the following challenges concerning children with foreign roots were identified:

- 1) In terms of total household income, the number of households with foreign roots falling under low-income categories was higher than those of Japanese households. Of all households with foreign roots, 33.2% earned less than 2.5 million yen per annum.
- 2) Compared with children from Japanese households, children with foreign roots faced more difficulties in learning, and this tendency was especially pronounced in junior high school-aged children and above.
- 3) Among the items related to self-evaluation of motivation and confidence in life, children with foreign roots had lower self-esteem than those from Japanese households, as evidenced in items "there's nothing I'm good at" , "I want to help someone" . Regarding " I love myself, " although children with foreign roots evaluated themselves more positively, their ratings were lower from the second year of junior high school onward.

The study indicates the necessity to examine clarifying the relationship between the identified issues.